熊谷市
記者クラブ取材情報

令和6年5月31日発表
担当課:熊谷図書館

タイトル

ミニ企画展「追悼・森村誠一の証明展」開催！！

1. **日時**　令和６年６月８日（土）午前９時　から　９月８日（日）午後５時まで

2. **場所**　熊谷市立熊谷図書館　３階　郷土資料展示室

3. **事業概要**

（目的・内容）
郷土熊谷出身で、日本を代表する作家・森村誠一氏が、昨年７月に逝去されました。今年没後１周年に当たり、森村先生の代表作である『人間の証明』を始めとする“森村文学”の作品群について、生原稿等各種資料を展観しながら改めてその業績を紹介する企画展です。

（効果）
推理小説だけではなく、歴史小説、ノンフィクションなどあらゆるジャンルを網羅して作品を創作し続けたこれまでの森村先生の作家業の足跡をたどることができると思います。また、常設展示されている「森村誠一文芸の館」との相乗効果で、より深く森村先生の作品、そして森村先生の「熊谷愛」の深さも知ることができます。

4. **特徴やPRポイント**

今回の展示では、書籍の代表作品を展示するだけでなく、森村先生が大学ノートに書き留めていた作品のプロットや校正原稿、更には先生が「写真俳句」の創作や小説の取材に使ったカメラやテープレコーダー、取材バックなど、森村先生の愛用品についても展示します。
また、森村先生の御自宅がある町田市の「町田市民文学館ことばらんど」からも原稿等の資料をお借りし展示します。町田市民文学館では、１０月下旬から森村先生の企画展を行う予定となっており、今年は熊谷市と町田市とで森村先生を追悼する展示を行う予定となっております。

5. **その他**

主催：熊谷市立熊谷図書館　協力：町田市民文学館ことばらんど

※ 資料の有無（ 有 ・ 無 ）　※市HPの掲載（ 有 ・ 無 ）

担当者　熊谷図書館副館長兼美術、郷土係長　大井教寛
連絡先　048-525-9463

熊谷市立熊谷図書館HP

熊谷市立熊谷図書館　ミニ企画展

「追悼・森村誠一の証明展」

～ごあいさつ～

“母さん、僕のあの麦わら帽子、どうしたでせうね”西条八十の叙情豊かな詩のフレーズが印象的な作品『人間の証明』は、小説作品のみならず映画化、ドラマ化され、大きな社会現象となりました。そして作家・森村誠一の名を、不動の地位に押し上げた作品ともなりました。

氏は昭和８年（1933）に熊谷町（現熊谷市）に生まれました。熊谷尋常高等小学校時代から様々なジャンルの本を読み耽り、文字通りの文学少年でした。そして作家となった氏の作品背景を決定づけた出来事は、12歳の時に体験した終戦前夜の「熊谷空襲」です。一面焼け野原となった街の風景を、氏は鮮明に思い出すことができると言うほど、心に刻み込まれています。

熊谷商工高等学校（現在の熊谷商業高校）を卒業して一年後、青山学院大学文学部英米文学科に入学、大学時代は登山にのめり込み、後年の趣味ともなったその経験が、日本推理作家協会賞を受賞した代表作『腐食の構造』など多くの推理小説の一場面を彩っています。

また、氏のノン・フィクション作品『悪魔の飽食』シリーズは戦争の悲惨さ、戦争という極限状態に置かれた人間のおろかさを世に知らしめ、氏が精力的に行った反戦・平和運動の原点の一つとも言えるでしょう。

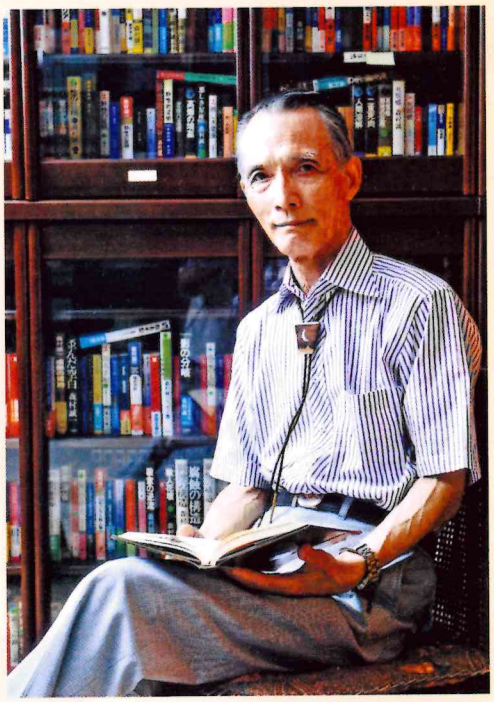
さらに『平家物語』や『忠臣蔵』『太平記』といった時代小説作品は、文学少年時代から読み耽った吉川英治の影響を受け、吉川英治文学賞を時代小説『悪道』で受賞したことは、氏にとっても感慨深い出来事であったと思われます。

そして晩年は「写真俳句」を提唱し、何気ない日常を写真で記録、俳句で記憶し、日本の文化を生活の中に浸透させていきました。

こうした“森村文学”ともいえる世界を構築してきた氏でしたが、令和５年７月24日、惜しまれつつも90歳で逝去されました。

今回展は、熊谷出身で日本を代表する作家である氏の業績を、ゆかりの資料で振りかえるとともに、小説を書く前段に大学ノートに書いたプロットから生原稿、そしてそこから出来あがった作品をご覧いただきながら、作家・森村誠一の証明をご堪能いただければと思います。また、常設展示内の「森村誠一　文芸の館」に展示している413タイトルの作品群も合わせてご覧いただき、その足跡をたどっていただければ幸いです。

最後に、今回展の開催にあたりご協力いただきましたご遺族の皆さまを始め、関係各位に厚くお礼申しあげ、開催のごあいさつといたします。



会期：令和６年６月８日（土）～９月８日（日）

休館日：毎週月曜日（祝日を除く）、7/5、7/16、8/2、8/13、9/6

会場：熊谷市立熊谷図書館　３階 郷土資料展示室

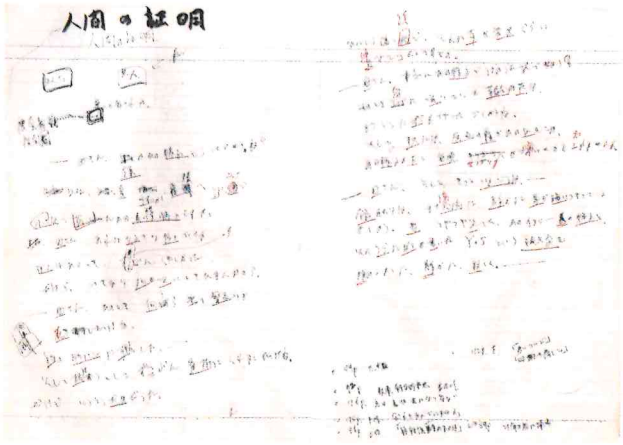
時間：午前９時～午後５時

主催：熊谷市立熊谷図書館　　住所：熊谷市桜木町2-33-2　　電話：048-525-9463

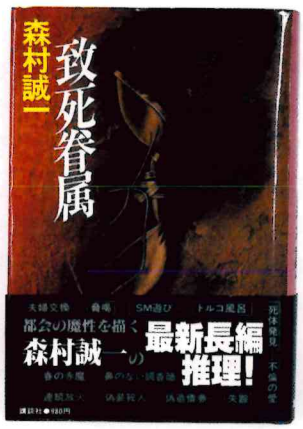
協力：町田市民文学館ことばらんど

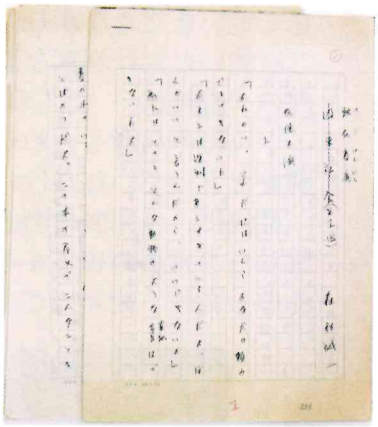


作家・森村誠一氏の仕事場（平成24年当時）

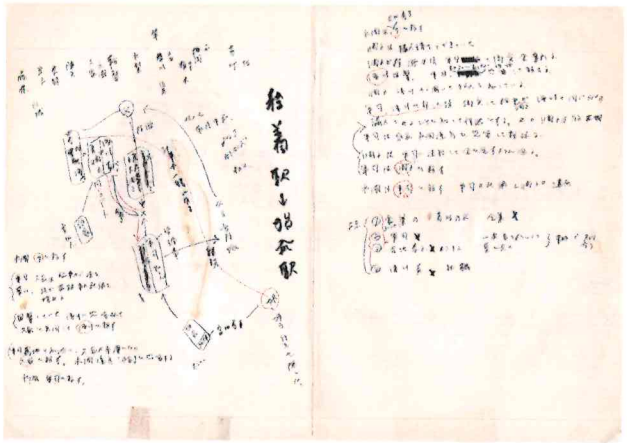


『人間の証明』大学ノートのプロット





『致死眷属』初版本と連載原稿



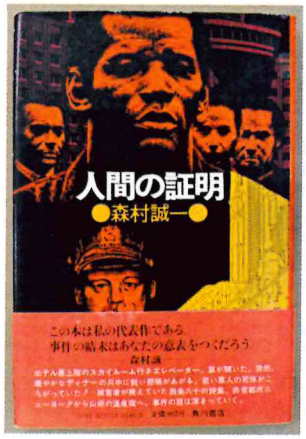
『終着駅』大学ノートのプロット



連載小説「ミッドウェイ」『オール読物』1990年



『終着駅』初版本



『人間の証明』初版本



第15回　江戸川乱歩賞トロフィー



第45回　吉川英治文学賞 受賞記念銀杯



愛用のピッケル